

教育目標「学び合い 高め合い 共に伸びる子」



佐渡市立七浦小学校

学校だより

令和3年8月31日発行  
新潟県 佐渡市立  
七浦小学校



No. 6

♪ 来られる時 に 来られる方 から さわやか あいさつ うらら ななうら ♪

今回は9月7日に開催！7:40～8:00 玄関前でお待ちしています！

## 2学期のスタートに当たって

校長 山口 明美

2学期が始まりました。学校に元気な声が響いています。子どもたちのチャレンジ学習や絵日記などから、今年の夏休みはご家庭でじっくりと過ごした時間が多かったことが伺われます。県内でもコロナウイルス感染拡大が収まりませんが、対策を十分考慮しながら教育活動を進めていきたいと思えます。

東京パラリンピックで2人の新潟県出身の女性が大活躍しました。

一人は競泳女子100メートル背泳ぎで銀メダルを獲得した阿賀野市立京ヶ瀬中学校3年生の山田美幸選手です。夏冬、男女を通じ、パラリンピック日本代表最年少のメダリストとのこと。生まれつき両腕がなく、両脚の長さが違う山田選手は、3年前の相川恩賜金水泳大会で泳ぎを披露してくださいました。「元気な子がいるから佐渡の子どもたちにも見せてあげたい」という、新潟水泳協会の相川出身の方の計らいによるそうです。その時小学校6年生だった山田選手は、すでにその時「パラリンピックを目指します。」とはっきりと言ったそうです。夢に向かって努力を続けたあとの笑顔はととも輝いていました。



もう一人は、開会式で国歌「君が代」を独唱した佐藤ひらりさん（20歳）です。佐藤さんは全盲です。三条市の特別支援学校を卒業後、音楽大学で学んでいます。5歳の頃に音楽を始め、今はシンガーソングライターとして活躍されています。私も何回か佐藤さんの歌を聴く機会がありましたが、澄んだ歌声は心に染みしました。佐藤さんも、東京五輪・パラリンピックの開催が決まってからは、小池都知事に直接出演を希望しオーディションを受け、夢の舞台に立ちました。歌い終わった後のインタビューでは、夢を言葉にし続けることの大切さを語っていました。

体が震えるほどの緊張、できなくて悔しくて落ち込んだ日々、それを乗り越えて得た達成感、支え応援してくれた周りの方への感謝の気持ちなど、二人の姿を見て、これからの未来を生きる子どもたちにもたくさん経験してほしいと思いました。その取りかかりである毎日の学校生活が、実りあるものとなるようにしていきたいと思えます。